

2025-07-27

ふじさわ・九条の会ニュース

No.79



発行人 ふじさわ・九条の会事務局長 吉塚晴夫 090-7949-9854

HP (ホームページ) <https://fujisawa9jo.org>

検索「ふじさわ・九条の会」でも開けます。



日本国憲法 第2章 戦争の放棄

第9条 ①日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
②前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

総選挙に続く自公連合過半数割れ—21世紀第2四半期の激動へ 7月21日記・大益弘

「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり——やがて来ん寿永の春」

第27回参议院議員選挙は、2025年7月20日投票が行われ、与党自公連合の過半数割れとなりました。いくつかの点で私見を述べさせていただきます。

第1に、本選挙のスローガンともいえる、与党の過半数割れ実現は、成果として評価すべきことではないでしょうか。1989年以来の36年間の自公連合にも先が見えてきました。

第2に、投票率が前回の52.05%から57.91%へ5ポイント以上もアップしたことも評価できます。自公批判層の投票行動が予想できます。

第3に、十分とはいえませんが、従来の国政選挙と比べて、消費税減税、財源問題など政策論争がかなり展開されていたように感じます。たんなる政権選択選挙ではなく、各党の政策を正確に評価できる情報提供が、メディアには望まれます。

第4に、フェイクニュース（偽情報・誤情報・歪曲情報など）に対するファクトチェック（事実検証）が、FNN、共同通信、神戸新聞、毎日新聞など一部のメディアで、選挙中も実施され、国民に公表していたことも従来の国政選挙時に比べて注目されます。特に参政党の政策についてのファクトチェックが目立ちます。今後は、メディア各社は日常的にファクトチェックを積極的に実施し、国民に情報提供すべきです。

第5に、参議院の与党過半数割れでも、改憲勢力は3分の2以上であることは変わりないので、憲法改正情勢は、依然として厳しいといえます。

第6に、今度の選挙で目立ったのは、参政党が4議席から14議席に躍進したことです。特に同党の政策が、排外主義、女性蔑視、民主主義否定、憲法否定的で、ある意味で極右といえる内容であること、さらに国民に浸透していく可能性があることなどで、要注意といえます。

第7に、トランプ病の影響ともいえる現象です。トランプ政権の自己中心主義、悪いのはすべて相手主義、

軍事力による脅かしの覇権主義など、いわゆるトランプ病が世界に蔓延しています。日本におけるトランプ病患者の最大のものは自公政権ですが、今度の参院選挙では、参政党の神谷宗幣代表が自らトランプ主義者を自認していることです。社会が危機的状況になると、非理性非知性主義が横行することになりがちです。

第8に、市民連合は、選挙公示前の6月9日から12日にかけて、立憲デモクラシー野党（社会民主党、沖縄の風、日本共産党、立憲民主党）に対し、共通政策の要請をおこなっています。そのなかで、「少数与党に追い込むために野党が統一して協力することの重要性」を述べています。

ちなみに市民連合とは、「安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合」のことです。「戦争をさせない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」「安全保障関連法に反対する学者の会」「安保関連法に反対するママの会」「立憲デモクラシーの会」「SEALDs」の呼びかけで、2015年12月20日発足しました。それから6回の国政選挙で、市民と野党の共闘を呼び掛けてきています。

今回の選挙で立憲デモクラシー野党は躍進はできず、当選者数は停滞・減少の結果となったにしても、与党過半数割れのために政策論争を展開したことは紛れもない事実です。

6月19日、野田佳彦立憲民主党代表と田村智子日本共産党委員長の会談で、与党を少数に追い込むための連携で一致。32の1人区のうち17選挙区で候補者の一本化をはかることに合意。その成果は現在の時点では確認できませんが、一本化努力自体は評価できることです。

第9に、2025年5月、参政党創憲チーム作成の「参政党が創る『新日本憲法』（構想案）」を発表しています。内容は、疑似近代憲法である明治憲法よりもひどいものですが、参政党の影響が社会に浸透していく以上、徹底的な批判が必要となります。適当な機会を設けて学習・批判活動を提案いたします。

平和憲法の像、ついに完成



建立地:ふじの丘ゆめホーム
藤沢市藤沢854-11

この7月、湘南初の「平和憲法の像」が完成しました。建立地は、藤沢市内の高齢者施設の敷地内で、新春の箱根駅伝のルートにもなっている県道30号線に面しているため、道行く人や車からもよく見える場所です。藤沢小学校の子どもたちの通学ルートであり、医療生協藤沢診療所の近くでもあり、最近

は新しくスーパーも出来ました。実に多くの人が前を行きかう、よい場所に作ることができ、大変ありがたく、また嬉しい気持ちでいっぱいです。高さ120cmほどの明るい赤色の台石の上に、ちょこんと「ちきゅうじょうのねことあかちゃん」が載っています。五千年耐えと言われるブロンズですが、重たくずっしりした印象は全くありません。むしろ、ふんわりやわらかい感じさえする、やさしく愛らしいこの像は、藤沢市が誇るアーティスト、山内若菜さんが製作してくださった作品「ちきゅうじょうのねことあかちゃん」です。まだ実物をご覧になっていない方には、まずご自身の眼でみていただくのが一番なのですが、この像の魅力と特徴を二つほどここで紹介したいと思います。

ひとつは、あかちゃんの、顔を上げ、遠くをみつめる姿です。ねこに寄り添ってもらい、舐めてもらい、励ましてもらいながら、まっすぐ未来をみつめるあかちゃんに、勇気をもらえる気がします。

もう一つは、あかちゃんの、何とも言えない、かわいい表情です。現地に行かれることがあれば、ぜひ顔をじっくりご覧ください。かなりかわいい

藤岡 みどり

です！そして、その表情をみていると、守ってあげたい気持ちがふつふつと沸き起こってきます。勇気をもらえて、同時に守ってあげたくなる。これはまさに日本国憲法そのものだ、ということに気づくのです。

若菜さんは、この作品を通じて、日本国憲法、殊に第9条、さらには前文の精神に形を与えてくださった、そう感じています。「ねことあかちゃん」が日本国憲法に見えてくるのです。

私たち、湘南平和憲法の碑を建立する会は、2022年11月に発足し、活動を続けてきました。様々なイベントを開催するなかで、多くの人たちに出会い、平和のこと、日本のこと、世界のことを話し合い、学び合ってきた、そんな日々を積み重ねてきました。その活動のなかには、常に人々の笑顔があり、平和を願う真剣な眼差しがあり、未来のために自分に出来ることを必死に考え続け、行動し続ける人たちの信念に触れ、心打たれることもありました。「平和がいいね」と思えばかりでなく、実際に行動する人たちの気持ちが結集し、その末に生まれた像なのだと思います。

厳しい現実を目の当たりにして挫けそうになった時、やさしい気持ちを忘れそうになった時、守るべきものが何かを見失いそうになった時、この像に会いに行く。そして、自分がこの世界の中でどこに立っていて、今何をすべきなのかを見失いそうになった時、この像を頼りにする。この像は、多くの人たちにとって、心の拠りどころであり、世界の見方を再確認できる場となるのではないのでしょうか。

「ねことあかちゃん」に会いに行ったら、どうぞなでてあげてください。きっと、勇気がわいてくると思います。やさしい気持ちになれるはずです。湘南の地に誕生した、すばらしいこの像を慈しみながら、未来に向かい、世界中のすべての子どもたちに心を寄せ、進んでいきたいと思ひます。

＜この像のパンフレットが出来上がりました。ご希望の方は、エコストアパパラギなどに置いてありますので、お持ちください＞

「あの時の20年とこの20年」 上浦 孝彦

ふじさわ・九条の会20周年のつどい

思い出す。作家・学者など著名人9人によって結成された「9条の会」は2004年6月に発足。それまで「憲法が、9条が危ない」とやきもきしていた多くの個人・団体が「待ってました！」とばかりに組織を立ち上げ、燎原の火のように全国に会がつくられた。「ふじさわ・九条の会」も翌年4月に産声をあげた。そして20年、毎年「つどい」を開催してきた。今年は、伊藤塾塾長の伊藤 真さんの講演。毎回知識が深まる。

20年と言えば、「昭和誕生からの20年間」が浮かぶ。昭和6年に始まった満州事変、12年に日中戦争、16年の太平洋戦争突入、そして15年間続いた「アジア太平洋戦争」の20年の終焉。「昭和の青春」は戦争一色だった。悲惨な結果を受け、もう二度と戦争はしないと誓い、日本国憲法第2章・第9条を創った。あれから78年、もし9条がなければ戦勝国米国の命令で、朝鮮戦争・ベトナム戦争等に日本兵が派遣され、多くの命を失ったに違いない。「戦後は80歳、当会は20歳」。人はいつか旅立つが、戦後と当会はいつまでも、この日本に生き続けて欲しい、と願うばかりだ。

2015年の10周年の集い宣言は以下のものであった。「2005年に『ふじさわ・九条の会』が結成され、10年が経過して日本が海外で戦争に加担する危険性が強まっている。戦後70年、日本が行った植民地支配や侵略戦争の歴史を否定する動きが出現した。この動きに連動して特定秘密保護法が制定され、集団的自衛権行使容認の閣議決定がされた。憲法九条を否定し米国に追随して海外で武力行使が出来るようにするために、自衛隊法の改定など戦争立法が進められようとしている。」それから10年後の現在はどうか。

○自衛隊の米軍への一体化、従属化が一層深まっている。沖縄、先島諸島への自衛隊ミサイル部隊の配備が進行しており、そこが戦闘の最前線になる。海外での戦争に加担するのではなく、日本を戦場にするという恐怖が間近だ。

○10年前に私たちが予感していた新たな戦前が、将しく開戦前夜の様相を帯びてきている。全国民を常時監視するサイバー防御法や学術会議解体法など、誰も望まない悪法が碌な議論もなく国会を通過していく。一方で30年間も多くの人々が待ち望んでいる選択的夫婦別姓法案は、排外主義勢力の悪あがきで成立の目途が立たない。また全国空襲被害者連絡協議会（空襲連）への謝罪、賠償の拒否を見れば、市民の戦争被害への謝罪、賠償はし

ないという、自民党政権と官僚のこれは態度表明である。

○この間の底知れぬ食品の高騰と、米不足に政府は無力であることをさらけ出した。原発を海岸線に50以上も配置したまま再稼働を進め、食料もエネルギーも輸入に依存しながら戦争準備に動んでいる異常さを政府は分からないのか。

○ネタニヤフ、トランプによるパレスチナのジェノサイドが、世界が見つめる中で誰も止められず止めようとせず、私たちの目の前で惨劇が進行している。

○大阪万博の開催とカジノ建設、米軍ポンコツ兵器爆買の支払いが進行している。そしてヘイトの横行蔓延と入管での人権蹂躪の日常化は、人間を大切にしない日本という国家が、その正体を現したのだ。

○世界は惨憺たる有様だ。このイカレタ世界を真っ当な世界にしていかなければならない。それには私たち市民が抗いの声を上げ続けるしかない。

「一人でも止めないー戦争への反対。一人でも止めるー戦争への参加」(鶴見俊輔)というように。そして「私たちが戦争を終わらせないとき、戦争が私たちを終わらせる」(HGウエルズ)ことを防ぐために。



上)講演する伊藤真さん
右)鈴鹿音神太鼓



左QRコードで
当会HP20周年
のページを表
示。
講演の音声！
時間45分とス
ライド112枚を視聴できます。

子ども達の太鼓の響きは？

折原 美知子

ふじさわ9条の会に集って下さる皆様は、どのような気持ちで前座の演奏をお聞きになるのでしょうか。今までも色々な方が舞台上に上がられました。女性ばかりの四重奏の静かな演奏に聞き入ったことも、ご夫婦がマンドリンとギターで自作の歌を歌って下さったこともありました。今回は片瀬市民センターを練習場所にしている太鼓集団に声をかけてみました。『鈴鹿音神太鼓』です。小学生と中学生を前面に、大人は後ろの大大太鼓でリズムを締めています。大人だけのプロの太鼓より力強さには欠けるかもしれないけれど、日本の未来を背負ってくれる子ども達に期待して、演奏を依頼しました。

会場で演奏を聴いてくださった方々には、迫力を感じる太鼓の音と子ども達の一矢乱れぬ姿が、体と心に響いたことでしょう。元々太鼓の響きは胎内で聴いた母親の鼓動と同じだそうで、いつの間にか心がほぐれて眠気を誘われるものですから。ステージが終った直後に楽屋まで来て、「素晴らしかったわ」と子ども達をねぎらってくださった方もいらっしゃいました。子ども達は「いつも通りだから全然緊張しなかったよ」と誇らしげでした。又、指導者からは「高齢の方が多い会場でしたから心配をしましたが、いい機会を与えて下さって感謝します」とが逆にお礼を言われてしまいました。

みんなで作った平和の木

島田啓子



5月31日(日)、藤沢市民会館で開催された「ここでくらっそ」で多くの方々の協力のもと、平和の木を立てました。

そもそも「ここでくらっそ」ってなあに？

「ここでくらっそ」とは、藤沢市が進めている奥田公園から旧図書館まで一帯の再整備、いわゆる「生活文化拠点再整備事業」に関心を寄せる市民団体

「藤沢の文化芸術を考える会」が、実行委員会を作って開催する文化芸術フェスタの名称です。文化芸術を糧に誰もが安心して共生できる街・藤沢をつくろうをモットーに、去年の6月9日に次いで2回目の開催でした。

去年は出展を断念

昨年、ふじさわ・九条の会は市民運動のコーナーで憲法九条を広めるためにチラシ配布や市民と交流する内容で出展する予定でしたが、その内容が政治的だということで市側からクレームが付き、断念せざるを得なかった経過があります。そこで今年は当会の名前は出さず、「平和の木ファクトリー」との名称で平和一般について考えてもらうワークショップ形式で出展しました

平和の木ファクトリー

木の葉の形に切った用紙に平和への思いを書いていただいて、「平和憲法」の太い幹から伸ばした枝に貼ってもらいました。当日だけでなく、当会の20周年記念の集いの会場や、「NP0ふじぽけ」に集まった子どもたちにも協力していただき、数十枚の木の葉を前もって集めておきました。5月31日当日はあいにく朝から雨のため、すべて館内で開催されることになりました。1階ロビーはかなり人出があったようですが、私たちのファクト

リーは2階ロビーでしたので、あまり人の流れがなく、いささか寂しい思いがしました。でもその分ゆっくりじっくり考え、話し合いながら書いてくれた親子連れが目立ち、それはそれで大変うれしい事でした。

様々な平和への思い

以下いくつかのメッセージを紹介します。すべて原文のまま。年齢・学年は記入している方のみ

「ちがいをみとめあっていっぱいお話ししましょう」
「大好きな人たちが平和に過ごせること」「いつも笑い声の聞こえる安心して暮らせる日々を」
「学校に通えること(小5)」「何かをやりたい!!」
「って思える環境があること(高2)」

「平和ってひとりひとりを大切にすること 戦争は絶対にダメ!」

「わすれてはいけない なかったことにしてはいけない」

「あなたの無関心が戦争をよぶ」「平和の反対は戦争じゃない。無関心」

「虹をかけよう友好の虹、平和の虹を!」

「Save Children in GaZa」

「No Palestine Genocide!」

素直にぶつけたひと言

「武器を買うな コメを安くしろ」「いつまでもけんかすんな世界中」

「先生をふやしす 小5」「(平和とは直接関係ないけど、切実なんだよね)」と中学生が話しているのに共感)

やっぱり平和憲法!!

「平和憲法いつまでも!」「平和がいちばん! 憲法守ろう」「せんそうでだれもころしていないころされていない 憲法9条があるから」

やってよかった平和の木ファクトリー

「先輩のみなさん 平和、戦争しない80年を守って下さり、ありがとうございます。私もその歩みに続きます。人も自分も大切にします。」

「平和を願う一人一人の力がこの葉のように集まって豊かに茂りますように」

主催者として様々なメッセージに励まされましたが、上記2通には特に心を動かされ、みんなで作った平和の木をまたどこかに展示したいと思いました。